

# “ GOT1000シリーズ ”の機種・機能追加

藤野寛史\*

New Models and New Functions of “ GOT1000 Series ”

Hirofumi Fujino

## 要 旨

近年、生産現場のグローバル化、アジア製造業の台頭、製品サイクルの加速化など、FA(Factory Automation)市場を取り巻く環境は大きく変化している。

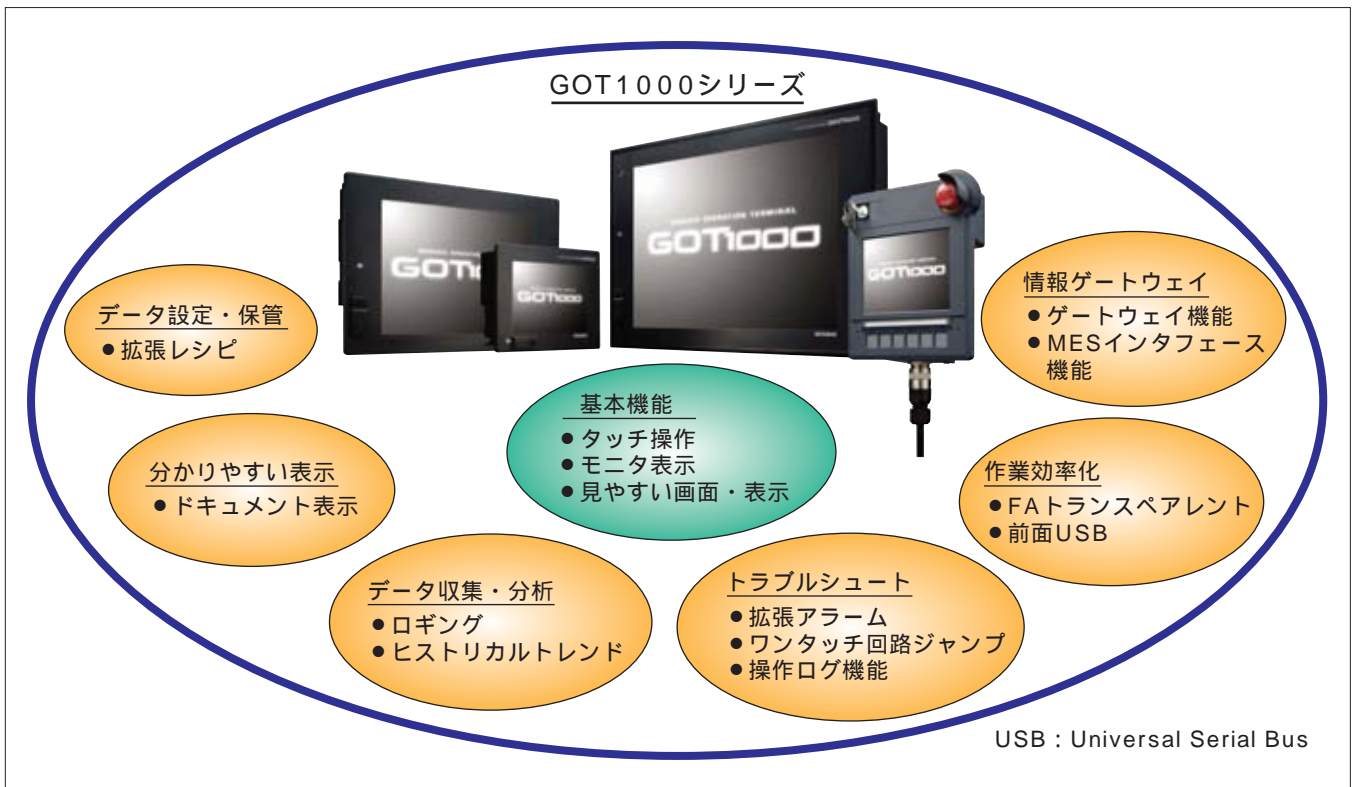
製造現場で使用される表示器に求められる役割も年々重要になっており、作業効率化・生産性向上、装置の差別化・高付加価値化、グローバル化に貢献する表示器が求められている。これらのニーズにこたえる表示器として、三菱電機は、2004年7月に“ GOT1000シリーズ ”の発売を開始した。

その後も上記ユーザーニーズに対応するため機種・機能拡充を続け、業界初の大画面・高解像度液晶を採用した15型XGA(eXtended Graphics Array)機種、産業用カメラの画像入力が可能なビデオ・RGB入力対応機種、中型サイズで大型機種と同等の機能を持ち業界最高速の性能を

実現した5.7型QVGA(Quarter Video Graphics Array)機種、生産現場のハンディターミナルとなる5.7型QVGAハンディ機種、超小型3.7型機種など全29機種をラインアップした。

また、機能面でも、最大4系統のFA機器を同時接続可能なマルチチャンネル機能、表示器の画面上にマニュアル等のドキュメントを表示するドキュメント表示機能、表示器で収集したFA機器のデータをSQL(Structured Query Language)文で直接データベースサーバに送信し工場の生産性向上を支援するMES(Manufacturing Execution System: 製造実行システム)インタフェース機能など、ユーザーの作業効率化に貢献する新機能を次々と製品化している。

本稿では、これらGOT1000シリーズの追加された新機種・新機能、及び適用技術について述べる。



## GOT1000シリーズ

高速応答性、高品位表示といった基本性能の向上と、画面設計・デバッグの効率化・ダウンタイム短縮・グローバル化といったユーザー作業の効率化と装置の高付加価値化への貢献という開発コンセプトの下で製品化したGOT1000シリーズである。2004年7月に発売開始以来、機種・機能を拡張しながら進化を続け、現在では15型～3.7型までの全29機種をラインアップしている。